



PMS・PMDD のすべて

「月経の前に心身の不調をきたす」という病態に関する最古の記述はヒポクラテスにまでさかのぼるそうだが、現代的な「月経前症候群 (premenstrual syndrome : PMS)」と「月経前不快気分障害 (premenstrual dysphoric disorder : PMDD)」の疾患概念確立の嚆矢は 1931 年のロバート・フランクによる「月経前緊張症 (premenstrual tension : PMT)」提唱にある、というのが衆目の一致するところである。爾来 100 年近くの時間が経過したにもかかわらず、驚くべきことにこの疾患群の正確な病態はいまだに不明であり、さらにわが国においてこの疾患が効能・効果に明記された薬剤は 1 つも存在しない。男性優位社会における「女性特有の、死ぬわけではない病気」に対する無関心のみがそのような停滞の理由であるかどうかは定かではないが、しかし「女性活躍推進」を目指す社会において、女性の働きやすさが OECD 加盟国中下から数えて何番目、というニュースが毎年メディアを賑わす現状を何とかしなければならないというコンセンサスの下に、特に働く女性の健康問題としての月経困難症・更年期障害とならぶ負荷である PMS・PMDD に対する関心はかつてない高まりをみせている。PMS の有病率は 5～20%、PMDD の有病率は 1～3%、年間の経済損失は 6,000 億円とも 6 兆円ともいわれるのであるから、それは確かに由々しき問題である。

本特集はそのような問題意識をもって企画立案された。総論として PMS・PMDD の病態・疫学・診断などについて、また各論として非薬物療法・薬物療法について、わが国におけるトップランナーの先生方に最新の情報をご提供いただいている。この 1 冊で、現時点での PMS・PMDD のすべてが把握できる、そんな特集号であることを願っている。

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科茨城県地域産科婦人科学講座 寺内公一)